

令和元年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	広報広聴委員会
参加委員	◎半田大介 ○成瀬 拓 齊藤達也 中村悠基 林 和明 原 栄一 宮下省二 飯島伴典 金沢広美

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

1. 上田市議会では常任委員会ごとに開催するテーマ別車座集会や、団体等を対象とした公募型の出前報告会を開催している。また、本年より議員が議場を案内する議場見学会を実施しており、夏休み期間には「夏休み議場見学会」を開催するなど、より多くの市民の意見に耳を傾け、政策へとつなげていけるよう取り組んでいる。しかし、参加者数の減少や参加者の固定化など開かれた議会活動にはまだまだ課題がある。そこで、広島県呉市議会では議会報告会や議事堂探訪ツアーなど先進的な取り組みをしていることから、より開かれた議会とは何か、議会報告会の今後の工夫・展開などを検討するため視察を行った。
2. 上田市議会だよりのリニューアルを行ったところであるが、より手に取りやすく、より読みやすい親しみのある議会だよりとするため、呉市議会の議会だよりの「チーム議会くれ」について視察を行った。

2 実施概要

実施日時	視察先	広島県呉市
令和元年7月29日(月) 14時30分～16時00分	担当部局	呉市議会事務局 議事課
視察事業名	「議会報告会について」「議員と巡る議事堂探訪ツアーについて」 「呉市議会だよりの「チーム議会くれ」について」	
報告内容	<p>1 視察先の概要</p> <p>広島県南西部に位置し、市域は瀬戸内海に面する陸地部と、倉橋島や安芸灘諸島などの島しょ部で構成されている。明治期に呉鎮守府が置かれ、世界最大で最速を誇った戦艦長門や戦艦大和を建造するなど、東洋一の軍港として知られた。戦後は、造船業や鉄鋼業中心の工業都市として発展した。</p> <p>2 視察先の特徴</p> <p>(1) 議会報告会</p> <p>4常任委員会ごとに班編成され、それぞれの委員会でその年ごとにテーマを設定して報告している。パワーポイントを使用してわかりやすさを向上させたり、参加者数に応じて座席の配置を変更するなどの工夫をしている。また、対象を高校生へも広げ、政治参加の重要性を</p>	

説いている。

(2) 議事堂探訪ツアー

平成28年度から新庁舎へ移転することを機に、市民に議会をもっと身近に感じてもらうことを目的に開催している。多くの方に参加してもらうため、市内最大のイベントである「呉みなと祭」が開催される「昭和の日」を開催日とするなど工夫をしている。

(3) 議会だより「チーム議会くれ」

平成29年5月創刊。それ以前は市の広報紙に掲載していたが、平成28年に中核市となったことを機に議会だよりの発行を決定。より広く読んでもらえるように電子書籍も導入している。コンセプトが明確であり、市民目線に立った編集が行われている。

3 視察事項について

(1) 議会報告会

北海道栗山町などを参考にして、平成22年に呉市議会基本条例を制定しており、議会報告会について規定した同条例第10条に従って毎年開催している。

ア 班編成 常任委員会ごと

イ 開催時期 ・平成25年度までは5月（改選期は11月）
・平成26年度は7月
・現在は10月～

ウ 議会報告会までの流れ

政策研究会

①当該年度の反省等

②翌年度の運営方針の決定

③政策研究会から常任委員長へ

④各委員会で勉強会・発表練習

議会報告会

⑤各地区報告書の提出

⑦報告書のとりまとめ

⑥議会報告会の検証

「政策研究会」は副議長を委員長とし、各会派の政策責任者1名ずつで構成され、以下の役割を担っている。

- ・意見書・決議の審査
- ・政策立案等
- ・議会報告会の企画及び検証

エ 議会報告会の状況

- ・平成22年度：試行開催とし、2会場で開催。
- ・平成23年度：16会場で開催。
- ・平成25年度：従来の16会場に加え、常任委員会ごとに関係する団体へ出向いて報告会を実施(4団体)。
- ・平成28年度：会場形式で10会場、団体とは6団体と実施。新たに市内の高校1校でも報告会を実施。
- ・平成29年度：会場形式で10会場、団体とは6団体と実施。高校での報告会は市内5校で実施。
- ・平成30年度：災害のため中止
- ・令和元年度：会場数、団体は検討中。高校は7校で実施予定。

(2) 議事堂探訪ツアー

ア 経緯

芸術ホールやヤフオクドームなどのバックヤードツアーを参考として企画。

イ 目的

「開かれた議会の推進」

普段は訪れにくい議場や委員会室等を休日に開放し、市民に対し議会活動を少しでも理解してもらうことを目的としている。

ウ 実施内容

議会運営委員会が主催。市内最大のイベントの賑わいを活用し、市役所1階のホールを利用する方々に対して議員がツアー参加への呼び込みを行っている。

子供連れや若い家族なども参加しており、記念撮影やSNSなどへの投稿を規制していない。参加者数の確認のみ行い、受付やアンケートなどは実施していない。

(ア) 第1回

対象	市民60名(事前申し込み)
実施日	平成28年4月29日(昭和の日)
見学場所	議事堂、協議会室、委員会室
説明者	議会運営委員会
見学時間	1時間程度
案内方法	「議会の仕組み」を説明後、諸室の案内・説明を行う。

(イ) 第3回

対象	市民193名
実施日	平成30年4月29日(昭和の日)
見学場所	議事堂、協議会室、委員会室、図書室
説明者	議会運営委員会
見学時間	11時から12時まで随時
案内方法	11時に「議会の仕組み」を説明を行うが、他の諸室でも案内・説明を行う。

◆第3回実施に当たっての改善点

第2回は申し込みが少なかつたため事前申し込みを廃止し、誰でも参加できるように改善を行った。第2回までは見学時間中全て参加する必要があつたが、ツアー開催時間中は出入りを自由とした。

(3) 呉市議会だより「チーム議会」

ア 概要

	内容
創刊	2017年(平成29年)5月
発行回数	年4回(定例会ごと)
発行部数	93,000部(1号あたり)
規格	(1) 版型 A4判冊子型 (2) ページ 約12ページ (3) 活字の大きさ(一般質問) 16Q (4) 組型(一般質問) 縦書4段組(1段:15字×35行) (5) 色 4色カラー
配布方法	自治会参加者に配布。未加入者は公共施設で配布。
ホームページ掲載	電子書籍(カタログポケット)とPDF形式
発行経費	印刷製本費(配送込み)1,404円/ページ
作成のコンセプト	・読み手に配慮した文字数やフォントの種類、色の使用を最小限にすることで、読みやすさを追求。 ・紙面に極力写真やイラストをページにちりばめることによって、“見る”広報紙を意識。
広報委員会	広報委員会を1号発行につき3回開催
広報委員の作業内容	一般質問及び予算総体質問の原稿作成

表紙のイラストや写真などは議会事務局の職員がデザインしている。当該職員は、市広報紙の作成を担当していた職員である。



<p>考 察 (まとめ:今後の活動に活かせると思われる事項等)</p>	<p>議会報告会の運営や議会だよりの作成に関しては、常に市民目線に立った工夫がされている。</p> <p>議員間においても会派や思想の垣根を越えて、チーム議会として呉市の発展のため手を尽くされているように感じた。</p> <p>広聴活動を通じて議会全体が新しい風を取り入れ、柔軟に活動へ発展していると感じた。上田市においても、次世代の政治への関心と参加を高めていく必要があり、呉市議会の取り組みを参考に検討していきたい。</p>
--	--

※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

令和元年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	広報広聴委員会
参加委員	◎半田大介 ○成瀬 拓 齊藤達也 中村悠基 林 和明 原 栄一 宮下省二 飯島伴典 金沢広美

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

上田市議会では、議員が市民の皆さんに直接、議会内の情報や市政に関する情報を報告すると共に、広く市民の皆さんと意見交換を行うことを目的に議会報告会を平成23年から実施しているが、年々参加者が減少傾向である。

今後もより多くの市民の皆さんに参加していただくため、山陽野田市議会の先進的な取り組みを視察する。

2 実施概要

実施日時	視察先	山口県山陽小野田市
令和元年7月30日(火) 13時30分～15時00分	担当部局	山陽小野田市議会事務局
視察事業名	「議会カフェ まちづくりだよ 全員集合!について」 「市議会モニター制度について」	
報告内容	<p>1 視察先の概要 山口県の南西部に位置しており、南は瀬戸内海に面し、東は宇部市、西は下関市、北は美祢市に接している。 平成17年3月22日に小野田市と山陽町が合併し誕生した。 明治期には日本初の民間セメント会社、小野田セメント(現、太平洋セメント)が設立されるなど、古くから工業都市として発展してきた。 面積:133.09K m²・人口:63,623人</p> <p>2 視察先の特徴 昭和30年代のエネルギー改命により石炭産業は衰退し、山陽小野田市の行財政は大きな打撃を受けたが、数十社の企業誘致をはじめ、山陽オートレース事業の開場や大型ショッピングセンターの誘致、山口東京理科大学の開校など、新しい産業と教育の都市へと歩みを進めてきた。 平成28年4月に山口東京理科大学が公立大学法人に移行。平成30年4月には薬学部を開設し、理工系の基礎的知識と専門的な学術を教育・研究するとともに、介護や医療、福祉と連携して地域の健康を支え、地域社会の発展に寄与する「地域のキーパーソン」を</p>	

育成している。

3 視察事項について

(1) 議会カフェ まちづくりだよ 全員集合！

ア 概要

- ・山陽小野田市議会基本条例に議会報告会を年2回以上実施することが規定されており、本条例をもとに実施している。
- ・定例会ごとの年4回、中学校区ごとの市内6会場（24会場／年）、2つの班編成で実施している。
- ・平成23年度までは「議会報告会」という名称で実施。
- ・平成30年度から、カフェにいるようになりリラックスした雰囲気でお茶を飲みながらざっくばらんに意見交換をすることなどを目的に、「議会カフェ」を実施。
- ・議会での審議内容等を報告した後、コーヒーなどを飲みながら、グループごとに分かれて意見交換会を行っている。

イ 実績

年度	開催力所数	参加人数
平成23年度	9カ所	133人
平成24年度	24カ所	386人
平成25年度	15カ所	180人
平成26年度	24カ所	259人
平成27年度	24カ所	194人
平成28年度	25カ所	224人
平成29年度	12カ所	66人
平成30年度	24カ所	274人
令和元年度 (7/29現在)	6カ所	96人

ウ 参加者を増やすための対策

- ・カフェスタイルでの報告会を実施
- ・公共施設以外にもポスターを掲示
例：コンビニ、郵便局、商工会議所
- ・議員に3名程度の動員を要請
- ・参加者アンケートに、どの議員から誘われたか記載する欄を設ける。

エ 参加者の反応等

（平成31年3月の議会報告会のアンケート内容から抜粋）

- ・議員から誘われて参加する方が一番多い
続いて、知人に誘われて、市広報または自治会回覧が続く
- ・参加者の内4割弱の方が3回以上議会報告会に参加している
- ・8割以上の参加者が、カフェ方式の小グループによる意見交換会を「良かった」と評価している
- ・8割の参加者が、今後も参加したいとしている

(2) 市議会モニター制度

ア 概要

- ・市議会の活動及び運営に関し、市民等から意見を広く聴取し、反映させることにより、市民と共に歩み、市民からより信頼される議会となることを目的に設置している。
- ・平成29年度から実施

イ 職務

- ・本会議及び委員会等の傍聴
- ・議会報告会に参加し、運営に対する意見の提出
- ・議会だより、ホームページ、フェイスブックに対する意見の提出
- ・市議会との意見交換会に出席 等

ウ 定員

10人以内

エ 要件

- ・18歳以上
- ・市内に在住、在勤、通学している方
- ・議員または行政職員では無い

オ 選考方法

- ・応募者を議会運営委員会（30年度以降は、広聴特別委員会）で選考

カ 意見に対する対応

- ・議会の考えと対応をホームページで公表

キ 報酬等

無報酬。予算の範囲内で記念品あり



考 察
(まとめ：今後の活動に活かせると思われる事項等)

今年度の議会報告会を10月に実施する予定であるが、年々参加者が減少傾向にある。

この状況を打開するため、上田市の重要課題や市民の皆さんの関心ごとに対する意見交換会を山陽小野田市議会のように「カフェ方式」で実施するなど、参加者が意見を出しやすい方法を検討する必要があると感じた。

令和元年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	広報広聴委員会
参加委員	◎半田大介 ○成瀬 拓 齊藤達也 中村悠基 林 和明 原 栄一 宮下省二 飯島伴典 金沢広美

◎委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

議会基本条例に基づき市民からどのように意見を聞くのがいいのか、どのように議会の活動を報告すべきなのか、「市民と議会との対話集会」を実践している別府市議会の内容や課題を把握し、上田市議会の広報公聴に生かすことを目的に視察を行った。

2 実施概要

実施日時	視察先	大分県別府市
令和元年7月31日(水) 9時00分～10時30分	担当部局	別府市議会事務局 議事総務課
視察事業名	「市民と議会との対話集会について」	
報告内容	<p>1 視察先の概要</p> <p>別府温泉で全国的に知られ、泉都と呼ばれて毎年800万人を超える観光客が訪れる観光都市であり、国際観光温泉文化都市、国際会議観光都市に指定されている。温泉が市内各地で湧出し、源泉数は約2,300ヶ所で日本の総源泉数の約10分の1を占め、湧出する湯量も毎分8万7,000リットルで日本最大。温泉は観光や市民生活だけでなく、古くは明礬の生産から地熱発電、医療、花き栽培、養魚業、最近では温泉泥美容まで様々な産業に利用されている。</p> <p>経済的に大分都市圏(別大都市圏)に属し、隣接する大分市とは市街地が高崎山により分断されてはいるものの、その間約7kmは九州で最も交通量の多い区間のひとつである6車線の別大国道(国道10号)により結ばれている。また、市内に4ヶ所あるJR日豊本線の各駅からも大分市中心部まで10から30分程度の距離であり、大分市のベッドタウンとしての役割も担っている。</p> <p>特別都市建設法による財政的優遇措置を得ていることもあり、平成30年現在、平成の大合併に接した大分県の市では津久見市と並んで合併・編入が無い。</p> <p>2 視察先の特徴</p> <p>市民から多くの意見を聞くこと、市民に広く議会の活動を知ってもらうことを目的に「市民と議会との対話集会」を開催している。</p>	

3 視察事項について

議会基本条例に基づき市民から多くの意見を取り入れるために、平成25年から「市民と議会との対話集会」を開催している。

上田市議会の議会報告会で課題となっている参加者数の確保については、別府市議会でも同様の課題を抱えており、動員をかけないと参加者が集まらず、開催する度に同じようなメンバーが参加する状況であった。

そこで別府市議会では参加者を集めるのではなく、議員が自ら市内の中学校へ赴き、生徒会役員等を対象に議会の報告や説明をするとともに、意見を聞いていた。

政治教育という観点で見ると、学校での開催は非常に有意義であり、そのなかで配られている議会の説明資料も非常によくできていた。

平成28年度から実施していた本事業は、平成30年度をもって市内全中学校で開催したため、今年度は高校での開催を検討している。

<実績>

●平成28年度

学校名	テーマ	参加者数
北部中学校	北部地区の将来について	22人
朝日中学校	・18歳選挙権について ・別府のまちづくりについて	18人
山の手中学校	自分たちの学校について	18人

●平成29年度

学校名	テーマ	参加者数
明豊中学校	別府の輝くまちづくり	23人
青山中学校	別府の未来について	16人
鶴見台中学校	別府のまちづくりと人づくり	20人
中部中学校	30年後の別府市構想	26人

●平成30年度

学校名	テーマ	参加者数
東山中学校	まちづくりについて	14人
浜脇中学校	別府市の未来について	14人



<p style="text-align: center;">考 察</p> <p>(まとめ：今後の活動に活かせると思われる事項等)</p>	<p>別府市議会では中学生を対象に対話集会を実施していたが、上田市議会としても広報広聴の観点から今後は積極的に学校へ足を運び、意見交換をする必要があると感じた。</p> <p>先進地の別府市議会では人数の制約の関係から、参加者は生徒会役員のみとしていたが、多くの生徒に参加してもらうためにも、役員に限らず、参加を希望する生徒を募って実施すれば面白い取り組みになると考える。</p> <p>一方、多くの生徒が参加した場合は、生徒一人に費やす時間が少なくなるため、運営方法を十分に検討する必要がある。</p>
--	--

※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと